

私立大学図書館協会 2011 年度第 4 回国際図書館協力委員会議事要録

日 時：2011 年 11 月 22 日（火）15：00～17：00

場 所：慶應義塾大学（日吉キャンパス）日吉図書館棟地下 1 階第 1 会議室

出席者：大平龍玄（愛知学院大学）、今村太朗（関西学院大学）、長島敏樹（慶應義塾大学）、
合田豊二（東京農業大学）、黒川孝明（同代理）、木村千鶴（広島修道大学）、
鈴木直子（明治学院大学）

会長校：伊藤秀弥（立教大学）

事務局：鈴木有紀（慶應義塾大学）

配布資料

- ① 2011 - 12 年度私立大学図書館協会国際図書館協力委員会名簿（11 月 1 日改訂）
- ② 国際協力基金支援企業一覧 ※ 11 月 8 日現在
- ③ 2011 年度第 2 回搬送事業申請 ※ 11 月 21 日現在
- ④ 2012 年度海外認定研修申請者 ※ 11 月 21 日現在
- ⑤ モーテンソンセンターとの 2012 年協定書
- ⑥ 2012 年度海外派遣研修申請者
- ⑦ 国際図書館協力シンポジウム実施一覧
- ⑧ 2012 年度私立大学図書館協会国際協力シンポジウム要検討事項
- ⑨ 国際図書館協力委員会へのお願い（私大図書館協会会長校 2011 年 11 月 11 日付文書）

報告事項

1. 事務局の交代について（資料①）
委員長（慶應義塾大学）の 11 月 1 日付所属変更に伴い、事務局も同学湘南藤沢メディアセンターの鈴木に交代したことが報告された。
2. 2011 年度国際図書館協力基金入金状況（資料②）
寄付を依頼した企業への依頼文書の送付手段を確認した。また現時点での依頼状況、入金状況を確認した。
3. 2011 年度第 2 回寄贈資料搬送事業の応募状況（資料③）
現在の応募状況（2 件）が報告された。
4. 2011 年度海外認定研修の応募状況（資料④）
現在の応募状況（3 件）が報告された。
5. モーテンソンセンターとの協定（資料⑤）
海外派遣研修先であるイリノイ大学モーテンソンセンターとの間で、昨年と同じ内容での協定締結について合意する予定であることが報告された。会長校の館長と委員長が署名済、モーテンソンセンターへ送付準備中である。
6. 本委員会に先立ち、2011 年度海外集合研修参加者（8 名）に対して、事前説明会を実施した。
日程・訪問先・内容等の説明と航空券等、関係書類の引渡しを行った旨の報告がなされた。

審議事項

1. 2012 年度海外派遣研修者選定（資料⑥）

今回の委員会に先立って実施した派遣者選考面接の結果を審議の上、応募者 2 名のうち、聖路加看護大学の佐藤晋巨氏を研修参加者として選定した。面接結果については、会長校より本人および所属長宛に書面にて通知する。

2. 2012 年度国際図書館協力シンポジウム（資料⑦、⑧）

前回委員会までの審議経過を確認した上で、より多くの参加者を得るため、以下のような案が出された。

講師：日本人で海外図書館の事情に通じている方、海外の図書館勤務の日本人も視野に入れる。

運営：海外集合研修とシンポジウムを隔年実施とし、シンポジウムに海外集合研修での訪問先の方を講師として招き、研修参加者もパネラーとして研修発表の場とする。

テーマ、講師、運営方法等について次回以降引き続き検討する。

3. 「海外集合研修」「海外派遣研修」「海外認定研修」の実施方法・目的・内容、申込み方法、研修後の報告などの見直し、各事業の効率化・合理化（会長校からの依頼）（資料⑨）

会長校より、本協会の研究助成委員会、協会ホームページ委員会と本委員会に対して課題を提示し、検討を依頼する文書を提出したことの報告と趣旨説明がなされた。併せて、協会ホームページ委員会では 2012 年度に予算を確保しホームページのリニューアルを予定していること、研究助成委員会には 2010 年度に新たに開始した海外図書館事情調査について、規定を含めた見直し検討を依頼していることが報告された。また本委員会については、前回委員会で 2012 年度の海外集合研修の中止を決めており次回の常任委員会に上程するが、この研修は 10 年の実績があり、協会として今後のあり方を併せて加盟校に説明する必要があるとの発言があった。

海外派遣研修と海外認定研修は事業内容が明確であり、このまま継続が可能である。そこで委員会の負担が大きい海外集合研修を中心に検討し、以下のような意見が出された。

- ・ 海外集合研修は、委員会側でテーマや訪問先を決定し、ツアーを組んで参加者を募集する。ホテルや航空券手配等は旅行会社に依頼している。
- ・ これに類似するのが研究助成委員会の海外図書館事情調査で、長期間、一人あるいは複数で、複数の国や図書館で調査し、報告書を出すと助成が得られるものである。現時点で実績はない。
- ・ 両者の違いは負担の大きい企画立案を委員会が行うか否かである。後者は研修者の意思で行程を決めるため成果が期待できるが、報告書だけでは研修内容の質の確認が難しい。一方、前者も明文化した規定は無く、年によって企画内容は様々であり、継続する場合は目的や対象者を明確化しモデルケースを定める必要があるのではないかと。
- ・ 海外集合研修はこれまで個人のつてに頼って継続されてきたと思われるが、近年は他部署への異動も多いなど図書館員のあり方が変化しており、今後継続するのであれば個人に頼らない方法を確立する必要がある。

- ・ 留学や海外インターンシップ等を扱う外部の複数の業者に提案させ、違うコミュニティからのアイデアを取り入れてはどうか → 次回までに委員が所属する各大学の国際交流担当部署からも情報を得ることとする。

委員会としては事業が10年経過した区切りとして2012年は今後のあり方を検討する1年としたい。国際協力シンポジウムとの組み合わせも考慮し、継続性を考え隔年で行うことなども今後検討する。

4. 次回の開催予定

12月22日（木）14:00- 関西学院大学にて開催する。

以上